



第17回やまなし県民文化祭

文学作品 公募要項

- 趣 旨** 県民の誰もが気軽に参加し、楽しみ合う中で文学創作活動の活発化を期待し、それによって本県の文学振興をはかる。
- 種 目** いずれの種目も、タイトル・氏名（ペンネーム）は欄外記入とする。
 小説＝B4 縦書き 400 字詰原稿用紙 30 枚以内とする。
 児童文学（子どものための文学、ヤングアダルト小説など）
 ＝A4 縦書き 400 字詰原稿用紙 20 枚以内とする。
 エッセイ＝A4 縦書き 400 字詰原稿用紙 5 枚以上 10 枚以内とする。
 詩 ＝B4 縦書き 400 字詰原稿用紙を使用し、本文 60 行以内 1 人 2 篇以内とする。
 短 歌＝B4 縦書き 400 字詰原稿用紙を使用する。1 人 10 首。
 俳 句＝B4 縦書き 400 字詰原稿用紙を使用する。1 人 10 句。
 川 柳＝B4 縦書き 400 字詰原稿用紙を使用する。1 人 10 句。
 応募原稿はワープロ使用も可。その場合小説・児童文学・エッセイ・詩についてはA4の用紙に20字×40行で縦書きする。小説、児童文学、エッセイ、詩の原稿には、ページ数を記入する。
- 募集期間** 平成 29 年 10 月 1 日（日）～ 10 月 31 日（火）（当日消印有効）
- 応募料** 1 人につき 1,000 円（含『県民文芸』1 冊贈呈（H30.2 発行予定）。作品応募の際、1,000 円分の郵便定額小為替証書を同封のこと。小為替証書には何も記入しない。）
- 送り先・問い合わせ先** 〒 400-8501 甲府市丸の内一丁目 6-1
 やまなし県民文化祭文学作品公募係（県生涯学習文化課 芸術文化振興担当）
 TEL 055-223-1797
- 発 表** 平成 30 年 1 月中旬～下旬に受賞者へ通知する。
 入賞・入選作品は「県民文芸」に掲載する。（平成 30 年 2 月下旬に発行予定）
- 表彰式** 平成 30 年 2 月 24 日（土）に県立文学館研修室において行う。
- 選 奨** 種目ごとに県民文化祭賞（賞金 3 万円）、優秀賞若干名を選奨する。
 なお、優秀賞の中で特に優秀な作品については準県民文化祭賞を授与する場合もある。
- 審査員** 小説 鬼丸 智彦、石川 博、古川 裕佳
 児童文学 犬飼 和雄、宮澤 賢治、佳川文乃緒
 エッセイ 水木 亮、入倉 文子、八木 春夫
 詩 古屋 久昭、宿沢あぐり、安藤 一宏
 短 歌 三枝 浩樹、古屋 正作、中沢 玉恵、川崎 勝信
 俳 句 井上 康明、保坂 敏子、長田 群青、山田 省吾
 川 柳 玉島よ志子、井上信太郎、望月たか美、木村 源子〔プロフィール裏面〕
- 応募規定** A) 山梨県民（在住・在勤・在学）及び出身者。
 B) 応募票に必要事項を明記し、切り取って作品 1 枚目の裏面左下に貼る。
 C) 短歌、俳句、川柳の原稿は必ず 1 枚の原稿用紙に全首・句を記載すること。
 D) 各作品の余白に種目（小説・俳句・川柳などの別）を明記（朱書）する。
 E) 作品はすべて未発表であること。既発表作品が入賞した場合は取り消す。
 F) 応募作品は入選発表（県民文芸発刊）までは他に投稿又は発表してはならない。
 G) 同一種目に複数のペンネーム等を用い、2 の種目の項に定める制限を超えて投稿してはならない。
 H) 自筆による場合、鉛筆の使用は禁止（ボールペン・万年筆使用）、楷書で明確に書くこと。
 I) この要項に該当しないものは審査の対象としない。
 J) 応募作品の訂正ならびに差し替えはしない。但し、審査後、誤字脱字等の修正をお願いする場合があります。
 K) 応募作品は返却しない。
- その他** ○応募された方の個人情報は、第 17 回やまなし県民文化祭（文学部門）のみに使用（県民文芸への掲載、入賞入選者の氏名等の公表を含む）し、その他の目的に使用することはありません。
 ○来年度の文学部門公募要項を希望する方は、要項送付用返信用封筒（郵便番号・住所・氏名を記入し、必要な切手を貼り、左下に「文学要項希望」と朱書きしたもの）及び申込書を郵送してください。作品を応募される方は同封してお送り頂いて結構です。

主催 山梨県・やまなし県民文化祭実行委員会 共催 山梨県芸術文化協会・山梨県文化協会連合会・山梨県高等学校文化連盟

キ
リ
ト
リ
線

| | | | |
|---|---|----------------|-------------|
| 第 17 回やまなし県民文化祭 文学作品応募票 ※作品 1 頁目裏面にのりづけする | | | |
| 応募料 1,000 円分の郵便定額小為替証書（何も記入しない）を同封します。 | | | |
| 種 目 | | 作 品 名 | (短詩型はあれば記入) |
| ふりがな | | ふりがな | |
| 氏名(本名) | | ペンネーム (あれば) | |
| 現 住 所 | 〒 | 電 話 番 号 | () |
| 住所が山梨でない場合、出身地 | | 携 帯 電 話 | () |
| 年 齢 | | 性 別 | 男 ・ 女 職 業 |

キ
リ
ト
リ
線

| | | | |
|-----------------------------------|---|---------|-------|
| 来年度（第 18 回やまなし県民文化祭）の文学部門公募要項 申込書 | | | |
| 返信用封筒（必要額の切手貼付）を添えて申し込みます。 | | | |
| 氏名 | | 電 話 番 号 | () |
| 住所 | 〒 | 携 帯 電 話 | () |
| 第 17 回県民文化祭 文学作品の応募 | | | 有 ・ 無 |

キ
リ
ト
リ
線

■『県民文芸』購読のご案内■

第 17 回やまなし県民文化祭文学部門の入賞入選作品を掲載する「県民文芸」を有料で配布します。購入を希望される方は、下の申込書を文学作品公募係まで郵送するとともに、冊子代と送料分の料金をお支払いください。支払い方法は、①郵便定額小為替証書を同封する、または、②下記口座へ料金の振り込みをしてください。
 ※文学作品に応募した方には、全員 1 冊お送り致します。3 月 10 日（土）までにお手元に届かない場合は、下記問合せ先までご連絡をお願いします。2 冊以上希望の方は、2 冊目以降の冊子代・送料分をお支払いください。
 ※文学作品に応募していない方も購入できますので、上記と同様の方法で申し込んでください。
 ※「県民文芸」のお申し込みをいただいた方には、3 月上旬にお手元に届くよう発送予定です。
 ※県立文学館売店でも販売します。

- 料 金 「県民文芸」1 冊 1,500 円（送料 何冊でも 200 円）
- 支 払 方 法 ①郵便定額小為替証書（何も記入しない）
 ②銀行振込 山梨中央銀行県庁支店 普通 630800
 口座名義 やまなし県民文化祭実行委員会（文学部門）
- 申込・問合せ先 〒 400-8501 甲府市丸の内 1-6-1
 やまなし県民文化祭文学作品公募係
 TEL 055-223-1797

キ
リ
ト
リ
線

| | | | |
|--|---|---------|--------------------------------|
| 『県民文芸 2017』申込書 | | | |
| 代金（冊子代+送料）分の 郵便定額小為替証書を同封します ・ 振込をします（いずれか○） | | | |
| 注冊冊数 | 冊 | 代 金 | 1,500 円× 冊（注冊冊数）+ 200 円（送料）= 円 |
| 氏 名 | | 電 話 番 号 | () |
| 住 所 | 〒 | | |

キ
リ
ト
リ
線

〈審査員プロフィール〉

| | |
|------|---|
| 小説 | <p>鬼丸 智彦（おにまる ともひこ） 南アルプス市在住、東北大学卒、山梨県庁勤務を経て現在山梨文芸協会会長。『桑の村』で第九回やまなし文学賞、『富士川』で第七回坊っちゃん文学賞受賞。『京都時習堂』『城将』『甲斐源氏姫物語』他著書多数。</p> <p>石川 博（いしかわ ひろし） 甲府市出身、在住。大学講師、高校教諭、小学校校長などを務める。山梨郷土研究会常任理事。編著書に『南総里見八犬伝』（角川文庫）、『昭和写真大全 甲府』（郷土出版社）、『山梨県史』（共著）、『鰻』（皓星社）等がある。</p> <p>古川 裕佳（ふるかわ ゆか） 2005年より都留文科大学に着任、国文学科教授。日本近代文学研究専攻。東京大学大学院修了。博士（文学）。主な著書に『志賀直哉の〈家庭〉女中・不良・主婦』（森話社）。</p> |
| 児童文学 | <p>犬飼 和雄（いぬかい かずお） 甲府市在住。東京大学文学部卒。法政大学名誉教授、元四川大学客員教授。小説『緋魚』で文学界新人賞受賞。『記紀に見る甲斐酒折王朝』『でいだらぼっちの松』他著書、翻訳書多数。</p> <p>宮澤 賢治（みやざわ けんじ） 甲府市生まれ。東京大学文学部卒。白百合女子大学名誉教授。同人誌「無人塔」（詩誌）、「こぶんたん」（児童文学誌）等で指導。日本ペンクラブ・日本児童文学学会・日本近代文学会会員。著書に『宮澤賢治－近代と反近代』『夏目漱石の文体』『北原白秋－童心のかなたに』等がある。</p> <p>佳川文乃緒（かがわ ふみのお） 韮崎市生まれ。山梨大学卒。県内公立中学校教諭を歴任。「CARAVAN（キャラヴァン）」同人、勉強会「書くじゃん」主宰。エッセイ『描き散らし花筏』でエクランエッセイ大賞、小説『ロダンの糞』で旺文社文学賞受賞。著書に『魯山人と影の名工』等がある。</p> |
| エッセイ | <p>水木 亮（みずき りょう） 早稲田大学卒業、同大大学院文学研究科修士課程修了。小説『祝祭』で第16回織田作之助賞、小説『お見合いツアー』で第49回農民文学賞、小説『峠の念仏踊り』で第62回地上文学賞受賞。「文芸思潮」エッセイコンクール審査員、石橋湛山平和賞 論文・エッセイ審査員。演劇指導、エッセイ教室など幅広く活躍。著書に『山梨の民俗芸能』等。</p> <p>入倉 文子（いりくら あやこ） 甲府市生まれ。東京女子大学卒業後、山梨英和中・高等学校教諭、山梨英和大学非常勤講師を経て、現在、山梨英和大学メイブルカレッジ講師、山梨英和高等学校講師。「国語専門教室つばさ」を開き、文章指導を実施。</p> <p>八木 春夫（やぎ はるお） 甲府市在住。エッセイ花みずきの会々員。著書、エッセイ集『黄昏飛翔』。</p> |
| 詩 | <p>古屋 久昭（ふるや ひさあき） 笛吹市在住。山梨県詩人会顧問、日本現代詩人会・日本詩人クラブ・山梨文芸協会会員、日本現代詩歌文学館評議員、山梨日日新聞月間詩壇選者。著書に詩集『料理考』『落日採集』『人名詩集あ・い・うさん』『新・日本現代詩文庫「古屋久昭詩集』』等がある。</p> <p>宿沢あぐり（しゅくざわ あぐり） 著書に詩集『〈一家〉心中』等がある。</p> <p>安藤 一宏（あんどう かずひろ） 鰍沢町（現富士川町）生まれ。東京農業大学農芸化学科卒。山梨県庁で農業技術研究に従事、定年まで勤務。日本現代詩人会・日本詩人クラブ会員、山梨県詩人会会長、詩誌「羅針」、「稜線」「微小宇宙」「乾季」同人。著書に詩集『夢の原型』『燃えない木』等がある。</p> |
| 短歌 | <p>三枝 浩樹（さいぐさ ひろぎ） 甲府市生まれ。「反指定」「かりん」「りとむ」の創刊に参画。現在「沃野」代表。日本歌人クラブ・現代歌人協会会員、山梨県歌人協会会長。著書に歌集『朝の歌』『銀の驟雨』、評論集『八木重吉たましひのスケッチ』等がある。</p> <p>古屋 正作（ふるや しょうさく） 黒駒村（現笛吹市御坂町）生まれ。「樹海」創刊に参加、「国民文学」入会・千代國一に師事。「樹海」編集発行人。日本歌人クラブ・現代歌人協会・山梨県歌人協会会員、山人会・山梨県芸術文化協会会員、毎日新聞山梨版「文園」短歌欄選者。著書に歌集『殻の中に』『秒刻の者』『輪廻』がある。</p> <p>中沢 玉恵（なかざわ たまえ） 県内公立小・中学校教諭、県立学校教諭を歴任。山梨県歌人協会顧問、「みぎわ短歌会」選者・編集委員、「未来短歌会」。著書に歌集『通り雨』、研究書『山梨の歌人たち』がある。</p> <p>川崎 勝信（かわさき かつのぶ） 相興村（現笛吹市一宮町）生まれ。「国民文学」入会・千代國一に師事、編者・編集委員。「富士」創刊・編集発行人。日本歌人クラブ甲信越ブロック長、山梨県歌人協会顧問、現代歌人協会・山人会会員。著書に歌集『不尽』評論集『松村英一の風景』随想集『短歌随縁』等がある。</p> |
| 俳句 | <p>井上 康明（いのうえ やすあき） 二十代から俳句を始め、「雲母」入会・飯田龍太に師事。廣瀬直人主宰「白露」創刊同人。「郭公」創刊。山梨日日新聞俳句欄選者。著書に句集『四方』『峡谷』がある。</p> <p>保坂 敏子（ほさか としこ） 山梨県生まれ。「雲母」入会・飯田龍太に師事。「雲母」同人、「白露」創刊同人、「今」創刊同人。第7回雲母選賞受賞。著書に句集『芽山椒』、アンソロジー『現代俳句の新鋭』、俳句鑑賞『鑑賞 女性俳句の世界』第四巻等がある。</p> <p>長田 群青（おさだ ぐんじょう） 市川三郷町在住。「雲母」会員、「白露」編集同人を経て、現在「郭公」編集同人。飯田龍太、廣瀬直人に師事。山梨文化学園講師、山梨ことぶき勸学院講師。著書に句集『霽日』『押し手沢』がある。</p> <p>山田 省吾（やまだ しょうご） 身延町在住。「裸子」に入会、堤俳一佳に師事。同人会幹事長を経て現在会長。（公社）俳人協会会員、朝日新聞県版俳壇選者、山梨新報俳壇選者。著書に句集『葛の花』がある。</p> |
| 川柳 | <p>玉島よ志子（たましま よしこ） 山梨市在住。「歩道」入会・二代目中沢春雨に師事、没後、「青空」雨宮八重夫に師事。「甲斐野社」代表同人、現代詩歌文学館振興会評議員、山梨県川柳協会副会長、金田一春彦ことばの学校方言川柳選者、山梨日日新聞社文芸川柳選者。山梨県芸術祭賞2回受賞、同優秀賞7回受賞。春雨賞、山梨県川柳大会知事賞他受賞。</p> <p>井上信太郎（いのうえ しんたろう） 富士川町生まれ、在住。「甲斐野社」発行人、県川柳協会会長、富士川町文化協会川柳部長、山梨新報時事川柳選者。旧増穂町芸術祭賞、山梨県川柳大会知事賞、山梨県芸術祭優秀賞、山梨県芸術祭賞・実賞、春雨賞受賞。</p> <p>望月たか美（もちづき たかみ） 南部町生まれ、甲斐市在住。「青空」同人、「一の枝」同人代表、山梨県川柳協会会長を経て名誉会長。著書に句集『信玄堤』等がある。</p> <p>木村 源子（きむら もとこ） 甲府市在住。「轍」編集委員、「枝の会」代表。山梨県川柳協会理事。毎日新聞（地方版）川柳欄選者。山梨県芸術祭優秀賞、やまなし県民文化祭賞、同優秀賞、金田一春彦ことばの学校方言川柳知事賞、山日文芸年度賞他受賞。</p> |